

ほ ど 教育センター通信

火床の火の心を紡ぐ

第10号（通算82号）
令和3年2月19日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター 発行



一人一台端末活用授業

一ノ木戸小 小宮山教諭



4年国語 「調べたことを報告しよう」
○タブレット端末でアンケートに回答しています

一人一人の良さ

小中一貫教育推進課 指導主事 今井 由実子

誰にでも得意不得意があり、発達や理解の速度、感覚も異なります。もし、全員が「普通」で「平均」であったなら、科学も技術も芸術も文化もスポーツも進歩せず、つまらない世の中になると聞いたことがあります。ジグソーパズルのピースのように、みんな凸凹があり、凸を学校や仕事、地域で発揮したり、凹を工夫して克服したり、折り合いを付けて補い合ったりしながら、一つの社会を形作っているのかもしれない。

義務教育段階では、様々な才能や個性のある子どもたちが、同じ学級、学年、学校で学んでいます。一斉指導で理解できなかつたり、集団行動が苦手だつたりすると、「発達障害ではないか。」と相談に挙がってくるのがたびたびあります。この障害名が一般的に聞かれるようになり、診断がついて投棄されたり、支援の方策が立てられたり、周囲の人からの理解や配慮が得られるようになったりしたことで生きやすくなった人も大勢いるでしょう。アンテナを高くし、早期に対応を検討していただくことで自分らしく学べるようになった子どももいます。時には、一見、発達障害のような様相を呈しているも、実は要因が異なるケースもあります。診断名の有無にかかわらず、目の前にいる子ども一人一人のために何ができるか、何をすべきかを見極め、学校全体で複数の目と力に対応する必要があります。そして、地域や社会で生きていく子どもたちのために、医療機関や福祉サービス、行政機関などの学校外の力を活用していくことも大切です。

学習や部活動等で際立った活躍がなくても、学級の係活動を地道に進めることができたり、穏やかな笑顔で周囲を和ませたりしてくれる子どももいます。毎日学校で会えるだけで、あるいは、事情があつて登校できなくても、何かしら自分がやるべきこと、行くべき場所を見付け、自分を大切にしてくれているだけで、十分だと思うことがあります。目の前の子どもたちに出会えた幸せを常に噛みしめ、成長した姿を思い描きながら、今、何ができるかを考えていきましょう。

GIGA スクール構想に基づく端末の整備について

2月末までに三条市立学校全校に一人一台端末を整備します。2月17日の「情報担当者向けクロームブック操作研修」で連絡させていただいた内容について教職員の皆様一人一人から確認していただきますようお願いいたします。

1 研修について

- 3月に行う学園別研修会では、「G Suite for Education」の各種アプリを用いた操作を中心に行います。
- グーグルドライブ内に「三条市 ICT 教育ポータルサイト」を開設しました。クロームブックの操作について、動画で詳しく説明してあります。各学校のマイドライブからアクセスして御覧ください。アクセス方法等は以下のとおりです。



①

各学校のマイドライブの中から「ポータルサイト」のアイコンをクリックすると左の画面が表示されるので、「Chromebook 操作手順」をクリックする。



②

「プレビュー」をクリックすると、操作に関する様々な動画（「グループ作成」「クラスルーム作成」等）が閲覧できる。

2 授業での活用について

- 本年度中に端末を利用する授業等を1～2回行ってください。「ログイン・ログアウトをする」「写真を撮影する」「インターネットで調べる」等、簡単な内容でも結構です。

3 その他

- 端末使用者は、日常的に授業をする「教諭」「教頭」「講師」です。「小中学校講師」の分は、端末を持ち運ぶ必要がないように、全学校に専用端末を配備します。「ICT教育推進講師」の分は、拠点校に配備し、必要に応じて持ち運んで使います。「校長」「養護教諭」は令和3年度は5月に学校配布したd-Tabを必要に応じて使用していただき、令和4年度以降は余剰端末を順次割り振ることを検討します。
- 「コンピュータを使うときのルールとマナー」を「校務用全校共有フォルダ」に保存しておきました。各学校で印刷し、4月に各学級・学年で子供に配付して確実に指導をしてください。保護者にも配付し、学年・学級懇談会等で話題にしてください。
- 子どもや教職員のアカウント、パスワードを配付し、各自の連絡帳に貼らせるなどして、個人情報の取り扱いについて指導してください。
- 端末の「年次更新作業」は、教育委員会と各学校とが分担・連携して行います。各学校は、後日提示するマニュアルを基に、校内で進めてください。

一人一台端末を活用することで、「児童生徒一人一人が学習意欲を高め、思考力・判断力・表現力を働かせながら、知識技能を習得できる授業づくり」につながっていきます。今後、活用例等も適宜紹介させていただきます。また、不明な点等がありましたら、教育センターまで御連絡ください。

令和2年度三条市重点教科（算数・数学）研修を振り返って

今月4日、三条学園で算数・数学の研修が行われました。会場は裏館小学校で、近藤若菜先生が4年単元「直方体と立方体」における「展開図」の公開授業でした。子どもたちは皆、大変集中して学習問題に取り組んでいました。今回の授業で特に印象に残ったことを紹介します。

★子どもが“立方体の展開図は何種類あるのか”“どんな図があるのか”など調べる必要があることを発言したことを基に「学習問題◎」を設定することができていたこと

このような子どもの問題意識は「スタート・ラーニング」における前時の復習と教師の働き掛けによって触発されたと考えられます。前時の直方体の展開図にはいろいろなタイプがあるのに対し、立方体の展開図は1つのタイプのみを共有して、教師が「立方体の展開図はこれでできればいいかな」と話したことに對し、子どもたちが声をあげたからです。これは、立方体の展開図を明らかにするには、1つのタイプでは不十分であることを、子どもが捉えているということの意味していると思います。

★どの子どもも自分なりに展開図を探索して見いだすことができていたこと



「ポリドロン」という正方形のフレーム6枚をはめ合わせながら展開図を考える数学的活動が行われました。試行錯誤して見いだす子ども。立方体の1つのタイプの展開図を1面ずらして見いだす子ども。直方体の展開図の各タイプから類推して見いだす子ども。個に応じた学習が成立していました。子どもは展開図を見いだすと、

「できた！」と声をあげ、自然と仲間と見せ合い考え方を話し合っていました。このような仲間との関わりが更なる追究意欲につながっていたと思います。みんなで10通りもの展開図を見いだすことができました。



★子どもの自主性が育まれていること

立方体の展開図は全部で11通りあることを自学で調べ、みんなに紹介した子どもがいました。その発言があつてからか、子どもたちはまだ見付けられていない1つのタイプがとても気に入り「もう1種類みんなで考えよう！」と主張する子ども。「私は12種類あると思う」と前向きに疑う子ども。授業後に黒板の前に集まって熱心に議論する子どもたち。更なる学びに向かっていました。



授業協議会は、参加者から「数学的な見方・考え方を意識して学習を展開していかなければならないと思いました」「子どもが分かるようになるための授業者の工夫を見習いたいと思いました」「子どもたちの反応や授業者の声掛けがとてもすばらしかったので、私自身も声掛けを意識しようと思いました」「協議会は話が尽きず、とても勉強になりました」などの声が寄せられ、とても充実しました。

	今回の研修は、今後の教育実践等に役立ちそうですか。			
	役に立ちそう	どちらかと言えば役に立ちそう	どちらかと言えば役に立ちそうにない	役に立ちそうにない
※表中の数値は、回答者の割合 (%)				
基礎研修 1： 27人参加	70.4	29.6	0	0
基礎研修 2： 29人参加	89.7	10.3	0	0
授業実践研修：108人参加	93.5	6.5	0	0

学園ベースで行うことは、三条市教育の特徴を生かした取組であり、対象教科等が変わっても長く続けることができると思います。このような学びをみんなで持続的に発展できるとよいです。

令和2年度授業力向上実践研修を振り返って

三条市教育センター主催の研修講座「令和2年度授業力向上研修」に、教職経験年数2年目から5年目の教員を対象としたStep1研修は44人が、7年目から10年目の教員を対象としたStep2研修は11人が受講しました。

年間の研修計画を年度当初、5月にガイダンス1回、学習会を4回（6月、8月2回、11月）としましたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、ガイダンスと8月中の1回を紙面研修としました。全体での学習会は2回、個別の学習会は例年通りの2回と限られた回数で実施する研修でも、受講者一人一人に指導主事が付く形で、受講者自身が選んだ教科等で研究授業を行い、Step1受講者は授業づくり実践記録を、Step2受講者は教育研究論文を書きあげました。

この受講生の研修の成果とも言える「授業づくり実践集」(Step1)と「教育研究論文集」(Step2)は、昨年度までの印刷物での冊子配付から、今年度は校務用共有フォルダの教育センターのフォルダに、PDF原稿を上掲する形に変更しました。3月中旬に上掲しますので、ぜひ御覧ください。



<Step1 6月11日>

<Step2 6月12日>

<Step2 8月7日>

研修の終わりに当たって、「まとめのアンケート」を2月に実施しました。日々の業務を進めながらの研修は、時に苦しいこともあったかと思えます。しかし、受講生自身の頑張り各学校で受講生を支えてくださった学校体制との両輪があって、下記の表の数値につながったと確信しています。受講生の皆様の頑なりに拍手を送ります。そして、各学校で受講者を支えてくださった皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

<まとめアンケートから>

※表中の数値は、 回答者の割合 (%)	この研修に参加して自己の授業力向上に役立ったと思いますか。			
	大いに役立った	やや役立った	あまり役立たなかった	ほとんど役立たなかった
Step1研修： 44人受講	93.2	6.8	0	0
Step2研修： 11人受講	90.9	9.1	0	0

以下に、Step1、Step2からそれぞれ受講生のアンケートのコメントを紹介します。

<p>Step1受講 栄北小学校 服部紫乃先生 授業づくりのために、校内の先生方や、青木統括指導主事から御指導いただき、自分自身が多面的・多角的な考えを得ることができました。特に発問に関して、今までは立場を固定して児童に考えさせていたことが多かったが、御指導いただき、立場を変えて発問する良さや、児童の思考の繋がりを感じることができました。また、発問の言葉で、たった1字変えただけでも伝わり方や意味が変わり、児童の思考に影響を与えると学んだ。本時では、自分の反省点は多くあったものの、普段よりも児童がよく考えている様子が見られてよかった。</p>	<p>Step2受講 一ノ木戸小学校 小宮山克彦先生 仮説を立て、それを軸にして年間の学習を進めてきた。明確な目的意識をもって授業をすることで、子どもたちへの学習効果や対象児の成長をこれまで以上に感じる事ができた。理科で考察を重視することを続けてきているが、中学年に合った考察の書き方に課題を感じていた。今回の研修でじっくり考える機会を得て、「子どもたちが安心して考察を書くためにどんな過程を経るか」、「どんな情報が必要なのか」、「どんなことに躓くのか」などが見えてきた。今後も、年間のテーマを定め、授業改善に取り組んでいきたい。</p>
--	--

来年度も「授業力向上実践研修」を実施しますので、対象の経験年数の教員の皆様からの積極的な受講申込をお願いします。